

葉↓えふ 様・羊↓やう
用↓よう 幼・要・夭・妖↓えう

④その他、間違いの多い旧カナの例。

・駅の向こう(名詞) ↓ ○向かう

○向う

×向かふ

駅へ向かう(動詞) ↓ ○向かふ

・どじょう↓○どぢやう ×どぜう

・いちよう↓○いちやう ×いてふ

・ちよう(蝶) ↓○てふ ×ちやう

(参考)

・助動詞「う」に接続する場合の旧カナ。

読もう↓読まう(五段動詞+「う」)

だろ↓だらう(助動詞+「う」)

寒かろ↓寒からう(形容詞+「う」)

でしよ↓でせう(助動詞+「う」)

・助動詞「よう」に接続する場合の旧カナ。

しよ↓ししよう(サ変動詞+「よう」)

見よ↓見よう(上一動詞+「よう」)

食べよ↓食べよう(下一+「よう」)

⑤外来語の表記が原語の綴りと異なる例。

・×「ベット」↓○「ベッド」(bed)

⑥歌稿の文字が判読しにくい場合に起こる誤植や明らかな脱字の例。

・「泥まみゆ綱茸^{いづくぢ}をあまた摘み取り来」

原稿は「ゆ」に見えるが「泥まみれ」か。

・「敵でも味方ない」↓「味方でもない」

二、送り仮名について

送り仮名は昭和四八年の内閣告示(五六年改正)の通則を基本とするが、それ以前の時代の送り仮名も許容。唯どの辞書にも許容していないものに限り直す場合がある。

三、助動詞・助詞・動詞の誤用

① 完了の助動詞「り」の誤用例。

文法の誤りで最も多いのは助動詞「り」。

四段活用とサ変の動詞に付く決まりで、

その他の動詞には「たり」が付くが、下

二段動詞などに接続させた誤用が目立つ。

・「少しうすれり」 ↓○「うすれたり」

・「たちまち失せり」 ↓○「失せたり」

・「光が見えり」 ↓○「見えたり」

・「旅に往かせり」 ↓○「往かせたり」

(「せ」が尊敬でなく使役の場合)

※次の様な文語動詞には特に注意が必要か。

「沈む」自動詞四段 ↓○石が沈めり

「沈む」他動詞下二段 ↓○石を沈めたり

×石を沈めり

② 過去の助動詞「き」の誤用例。

「き」(連体形は「し」)は活用語の連用形に付き、例外の一つ、サ変動詞には「せし」

「しき」と付く決まりだが、サ行四段とサ

変に付く場合の混同が見られる。

・流す(サ行四段) ↓○流しし涙

×流せし涙

・発す(サ変) ↓ ○発せし言葉

×発しし言葉

※四段かサ変かは、活用の違いで判別。

サ行四段の活用↓せ・し・す・する・すれ・せよ

サ変の活用↓せ・し・す・する・すれ・せよ

③ 文語作品での接続助詞「ば」の正誤例。

・○「雨降れば水の増したる」 ↓×「雨降らば」

已然形+ば||確定条件(〜ので)

・○「花咲かば香満つらむ」 ↓×「花咲けば」

未然形+ば||仮定順接条件(〜なら)

④ 動詞の連体形と終止形の取り違えの例。

・「野良猫が顔見す時に」 ↓○「見する時に」

使役の「見す」は下二段動詞で連体形は

「見する」。(但し上二の「生く」等は中古以前は四段活用のため、個別に確認。)